



オンライン職場体験の可能性を考える 地域円卓会議

子どもたちと社会を繋げるオンラインジョブツアー。
その可能性と課題を共有し、事業を行政資金だけでなく
多様な財源で継続するには

実施報告書

日時： 2024年3月27日（水）15:00-18:00（受付開始14:30-）
場所： アイム・ユニバースてだこホール 市民交流室（沖縄県浦添市仲間1-9-3）
主催： 株式会社ワンスペース
協力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

【報告】オンライン職場体験の可能性を考える地域円卓会議



- 日時：2024年3月27日（水）15:00-18:00
- 主催：株式会社ワンスペース
- 場所：アイム・ユニバースでだこホール 市民交流室
- 協力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO 法人まちなか研究所わくわく
- 着席者数：8名（論点提供者、司会、記者を含む）
- 参加者数：10名（教育機関、行政、自営業等）

論点提供

玉城 貴史（株式会社ワンスペース 代表取締役）

子どもたちと社会を繋げるオンラインジョブツアー。
その可能性と課題を共有し、事業を行政資金だけでなく多様な財源で継続するには

浦添市のワンスペース社は、小中学校のキャリア教育プログラムを行政から受託し、子どもたちに様々なプログラムを開発提供しています。同社は2023年度の新展開として、「オンラインジョブツアー」という配信技術を活用した職業体験プログラムを開発し実証事業を行っています。（公益財団法人みらいファンド沖縄の休眠預金活用事業に採択）。この実証により、距離的に遠い県外企業や、現場に入りにくい職場の体験プログラムを実現しました。今回の円卓会議では、この事業の効果やステークホルダー、そして波及効果等を確認し、様々な財源を活用した事業継続の可能性の議論をします。

センターメンバー



玉城 貴史
株式会社
ワンスペース
代表取締役



米須 薫子
沖縄県教育庁
生涯学習振興課
課長



宮城 那津美
南城市立
久高小学校
教諭



当真 由香
宜野座村
観光商工課
キャリア教育支
援員コーディネ
ーター



瑞慶山 貴大
シママース本舗
マーケティング
企画課



波平 雄太
琉球新報社
統合広告事業局
ソリューションビ
ジネスグループ

オンライン職場体験の 可能性を考える 地域円卓会議

2024. 3. 27 (水)

15:00 ~ 18:00

② 14・ユニバースてだこホール 市民交流室

子どもたちと社会を繋げる

オンラインジョブツアー。

その可能性と課題を共有し、

事業を行政資金だけでなく

多様な財源で継続するには



主催 株式会社 ワンスペース

協力 公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO法人 まるなが研究所わくわく

論点提供

玉城 貴史 さん

株式会社 ワンスペース 代表取締役

名護市宇辺出身 (小学校同級生13名)

人材育成 業界へ。

2015 → なは市事業でオンラインを提案・実施。

コロナ → オンラインの必要性

オンラインジョブツアー

全6回 19校 46クラス 998名

6事業所

コロナで失われた子どもたちの体験を
ホントウに

コロナでとった。オンライン環境

職場見学をオンライン (リアルでみれな...
とこへも 安全・守秘)

人教キャパ 気にせず
移動 離島も
いろいろ

② 次年度の予算がみえない

学校・事業者とも

未来(継続事業)の

話ができない

学校 事業所 } 評価
えた

米須 薫子

沖縄県教育庁生涯学習振興課

やりたいこと

中学校の進路指導

親・先生に行きなさい
自分でえいべでいな、子がいる

ニート — 大学生のあとニートに
何やって...かわからない

当時のこと

離島
安全面
守秘 → 銀行でか

とても
可能性
感じる

いろんな企業を知ることできる

- ▶ 転職市場にも
- ▶ 体験とくみあわせる
- ▶ 事前事後学習での活用

宮城 那津美

3

久高島 <sup>1.2年
3.4
5.6</sup>

小 10名 中 5名 留学センターある
交通安全を教えられない

職種 船・食堂 みえる職業が
漁師... とても少ない

いろんなこと知って、経験 移動
船がすぐとまってしまう。波たない日と
小5の子たち。4年間。外でのかかわりなかった

何がどの高校につながるかもみえない
オンラインジョブツリー

大興奮 他学校のようすみるのもたのしい

電子黒板
ネット環境
の悪さ

質問い、ばい
会社で100人働いていること新鮮
働く理由 外に目を向けるように

「おしいが」
キリギリ
11月
過ぎる

見ようと
はじめた

當眞 由香

IT産業 サーバフォーム

3小1中1高
学校

入居企業

他の業種も、
ITだけじゃなく

地域産業 人材かくほ
事業継続

地域型就業意識向上支援事業

（財源、かえて、つづけている (-格交付金)

産学官の協賛会 1年のとりくみの評価
協議する

商工会 個人事業
校長 小中高
4月に
全学校を
まわる

事務局: 観光商工課
企画課
産業振興課
健康福祉課
教育課

農業者委員会

地域の
方も
授業参観のとき
ごきたらイネ

オンラインジョブツリー
事後に 子ども・先生
評価高い
行政のホリカさがしたり

3年で自走
区と直接
かかることはない

事業者として
財源負担
可能性ある

瑞慶山 貴大

4

シママス本舗 マーケティング企画課

PBL 糸満市 課題解決型学習

からのお声かけ 沖縄水産高校との
共同開発
コロナの体験格差
キッズ失) 大人入りしてきた

ポイントあわせたいへんだったか、
やりやすかった。

見学うけ入れるより、負担感は小さかった

地域の子どもたちとつながること

「塩」ブランド、愛着を感じてもらえる

- ▶ ざいふと額による
- ▶ 広告 + 社会貢献性
- ▶ キフ

協ギする場 ー うんと言いやすい
経営層
キフとの親和性

波平雄太 さん

株式会社環境新報社広告事業局
ツラ・シブセッションズグループ

- 台風で延期 → 物動かないので、対応しやすかった
- 1コマの授業におさまる

知ってもらキカイ、自分の仕事をみつま
受入れたらツラ → なおすキカイ

広告費とするのはムカンイ

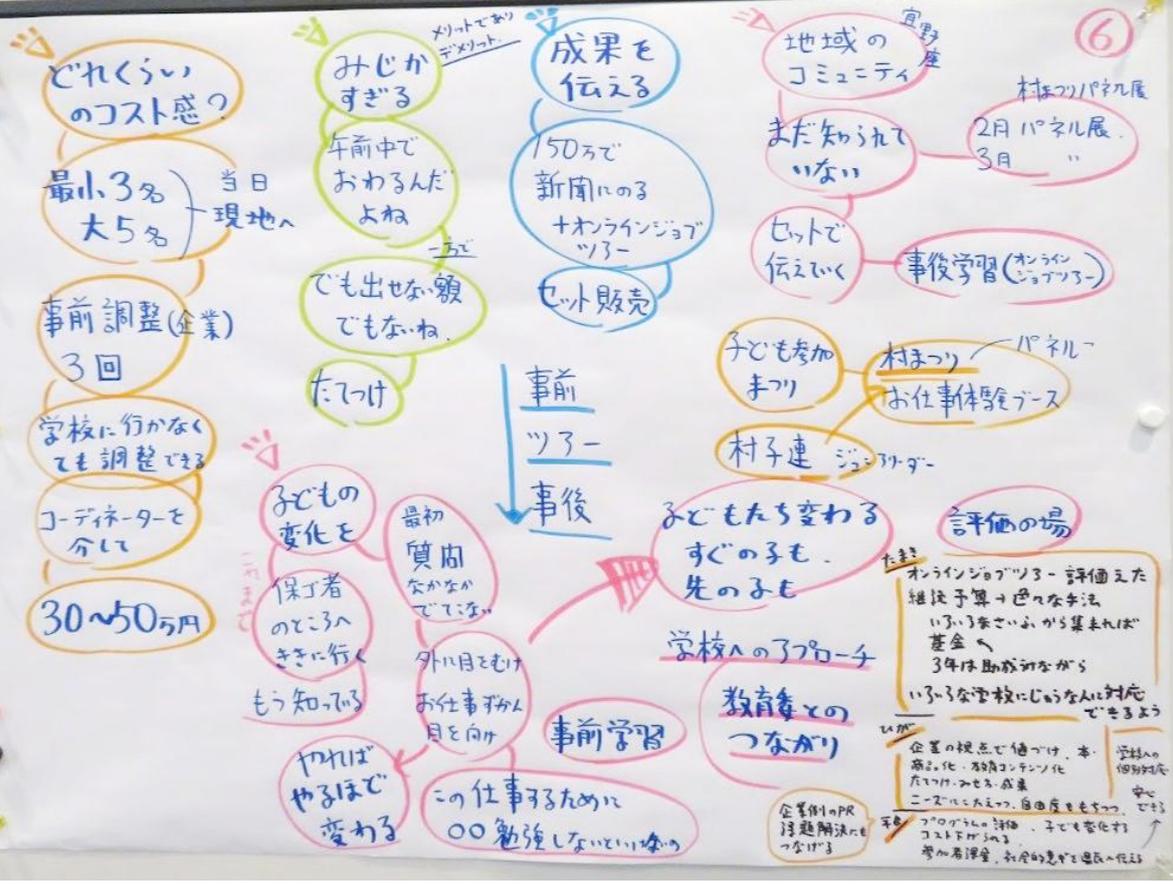
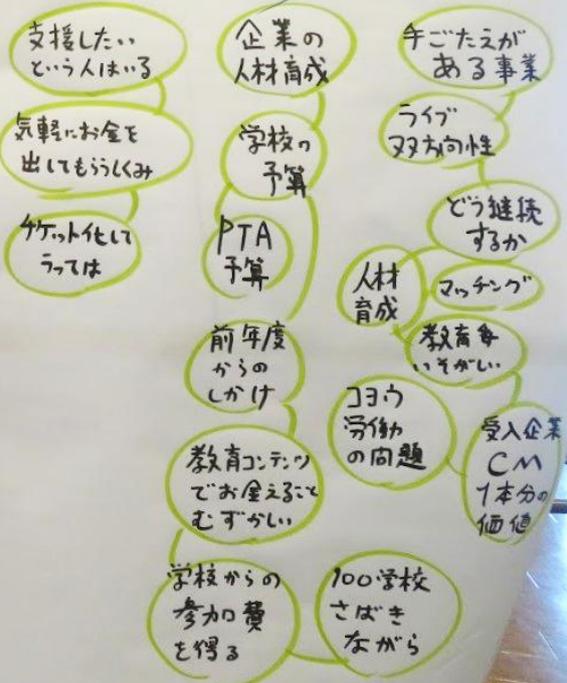
キフ

1社単独ではなく、地域も。

たくさんのおいふで、子どものために

サブセッション

5



➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 離島過疎地の子どもたちにとって配信技術を活用したプログラムは、換えのきかない「交流と体験」機会を提供するセーフティネットである。その効果・重要性を行政とも共有し、事業予算を担保していくべき。
- 実行された（実行予定の）プログラムは当事者のみならず、産学官で評価する場を持ち、その有用性を議論すべき。企業側も主体的に関わり、公益性のある事業に参画することのメリットを自ら設計しよう。
- プログラムは、当日のみならず、事前事後学習も踏まえた事業設計を行い、学習効果と地域参画の多様性を両立させ相乗効果を高めよう。

■参加者によるサブセッション

子どもたちと社会を繋げるオンラインジョブツアー。

その可能性と課題を共有し、事業を行政資金だけでなく多様な財源で継続するには

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・人材育成の予算はつかえる？
 - 企業のさいふ
 - 企業の大きさによる
- ・学校の予算としては？
 - 島に来てもらった交通費ぐらいしかない
 - 職場見学に予算はない
 - 今回の会ギで予算の問題があることを知った
 - PTA 予算→PTA 総会でりんぎ
 - 前年度に予算をくむ必要
- ・教育で利益をつくることはむずかしい
 - 学校にも参加費を
- ・10月～11月に相談→12月に予算がきまる
 - 2月に決さいしてる
- ・スケールのしやすさは学校
 - 100企業はさばけなくても
 - 100学校はさばける

②

- 今までのキャリア教育
- ・今回一番「手ごたえ」
 - ・「可能性」感じる
 - ・「Live」で相方向というのがポイント
 - ・1年間は実せき作り
 - ・行政の窓口とのマッチングが難しい
 - ・人材育成＝各自治体が取り組んでいる
 - ・教育委員会は多忙！
 - ・受け入れ企業はCM一本分の価値（広報的）
 - ・教育（＝教育）雇用（＝労働）文脈がちがうのではないか

③

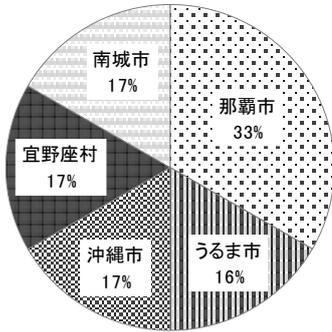
- 草かりチケット→売れた！
- 口コミで広がっていく。
- 1000円×80人
- お金を回していく。
- みんなで汗かいて、弁当うれて、歴史を知る。
- お金を出させる仕組み

オンライン職場体験の可能性を考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

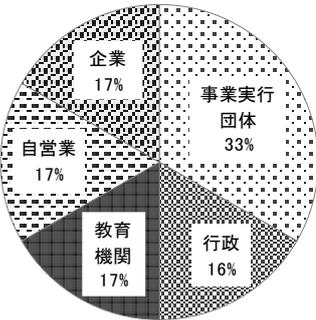
◆概要

- ・日時：2024年3月27日（水）15:00-18:00
- ・場所：アイム・ユニバースてだこホール 市民交流室
- ・着席者：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：10名（教育機関、行政、自営業等）
(アンケート回収6名、回収率60%)

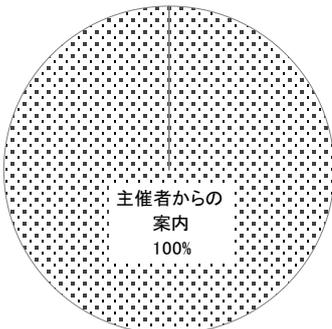
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.2（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足
2名	3名	1名	0名	0名

5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・ 様々な有識者の意見、視点がならではで興味が出た。教育から産まれる「可能性」は何か、どこまであるか、ワクワクした。
- ・ 当方、協議会での課題解決につながるヒントを得ることができた。協力企業さんの意見を聞くことができた。

(4. 概ね満足)

- ・ ワンスペースさんのすてきな事業のサイゴにかかわれてよかった
- ・ 行政や学校側の考え方を知ることができ新鮮でした。
- ・ オンラインジョブツアーのよさを再確認でき、伝えることができた。他の立場からの考えを聞くことができた。

(3. 普通)

- ・ 財源に関する具体的な議論はあったのだろうか？様々なニーズ（年齢など）がある中でオンラインジョブツアーのアセットを言語化する必要があると思った。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 正直、ゲスト視点では見えなかった。
- ・ PTA 予算からの小口の資金調達は最初の取り組みとして良いではないか。
- ・ たくさんある（書きおさまらない）
- ・ 広告とのパッケージを提案したが、よく考えると 1 社提供のような形で学校現場に入ることがいいのかどうかはもう少しちゃんと考えないと危ないなとも思いました。
- ・ 私たちが気軽にやったジョブツアーが予算や協力企業など見えなかった問題があることがとても勉強になった。授業参観の時に言うや、ぎのぞ村のキャリア教育のあり方は参考になると思いました。
- ・ 「ニーズ」は「作る」ものではないと思いました。可視化するが正しいのかな。

7. 会議運営についての意見、感想

- ・ もっと議論の「回数」を増やし「認知」「集知」をすれば必ず伝わる「事」だと感じた。
- ・ とても円滑でした。
- ・ 教育現場ではあまりこのような会議に参加することはないのでとても新鮮でした。
- ・ オーディエンスが少なすぎ→特定の利益に依りすぎてないか？（議論が）

(写真) 会場の様子



{ シマース
久高小
コーディネーター
ワンスペース } → 企業側の子

- ・ 人材育成の予算はつた？
↳ 企業が大きさに依る。
- ・ 学校の予算とこれ？
↳ 島に集るとなると交通費ぐらいしかない
取手場見学に予算はなし
今日の会場で予算の内訳があることと文書に
↳ PTA 予算 → PTA 総会でリムギ
前年度に予算とくらべて
- ・ 学校で利益をつくることはむずかしい
↳ 学校にも参加費
- ・ 10~11月に不利益 → 12月に予算がきまり
2月に決まるとして
- ・ 29-11のしせりまの学校
↳ 100企業はさばけりま
100学校はさばけりま

◦ ← 今回のやり方 ^{教育}
 ・今回一番「手」を「たえ」
 「可能性」を感じる。
 ・「Live」で相方向
 というのがポイント。
 ・1年間は ~~準備~~ 実行
 作り。
 ◦ 行政・窓口とのマッチング
 が難しい。
 ◦ 人材育成 = 多自治体 ^が ^加
^く ^ん ^で
 ◦ 教育委員会 ^は ^多 ^忙 [!] ³

・受入側の企業は
 (M-本分の価値 (社会的))
 ・教育、雇用と
 教育 // 労働 / 文脈が異なる
 の下は「お」が

草かりチケット → 売れた!
 口コミで広がっていく。
 1000円 × 80人
 お金を回していく。
 みんなで汗かいて、弁当食べて、
 歴史を知る。
 お金を出させる仕組み。